4. 令和４年度の学校関係者評価の概要

本校では、本年度も令和４年７月 22 日と 11 月 25 日の計２回、「学校関係者評価委員会」並びに「教育課程編成委員会」を開催いたしました。また、例年３月に両委員をお招きし「卒業研究・卒業制作発表会」および「ＲＪＰ学習成果報告会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度に引き続き中止といたしました。以下に本年度の学校関係者評価委員会の概要を公開します。

１. 2022(令和 4)年度 第１回学校関係者評価委員会

大項目		
基準１ 教育理念・目的・育成人材像	R03 自己評価	3.8/4.0
	前回学校関係者評価 (R03 年度第２回)	教育理念や目的、育成人材像の重要性に関しては、教職員に十分に浸透しており、その実践においてもおおむね満足できる取り組みがなされている。また、各学科の教育目標、育成人材像を正しく方向付けるための一連のプロセスにおいても適切に構築されている。一方、環境の変化に対応するための将来構想に関しては、今後も社会等の動きを見極めて柔軟に対応する必要があり、科を超えた取り組みであるため、校全体で取り組んでいく。 中期計画、DX 社会をワクワクさせる学校づくりに関し、前回に引き続き、新科２科の開設準備の進捗関し報告を行う。 新科２科に関し、企業連携が進んでおり就職先も想定できている点、また教員採用も決まってきている点、安心したとの意見をいただく。一方、AI 系の学科は、他校でも就職に苦労しているのでこの点、今後の課題になるとの指摘をいただく。 未来会議は単なる講演の場ではなくディスカッション等をとおして、将来の可能性を共有する場とすべきとの意見をいただく。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R04 年度第１回報告)	中期計画、DX 社会をワクワクさせる学校づくりに関し、前回に引き続き、新科２科の開設準備の進捗およびこれからの人材育成の方向性を探る専門人材未来会議の活動に関し報告を行う。
	本回学校関係者評価 (R04 年度第１回意見)	上記取り組みで問題は無い。
基準２ 学校運営	R03 年度自己評価	3.4/4.0
	前回学校関係者評価 (R03 年度第２回)	学校運営方針や事業計画については明確に定められており、設置法人や学校そのものの運営に関しても寄付行為や規定類により適切な運営を行っている。 専門学校を取り巻く状況を概説し、それをふまえた上で、本年度における Covid-19 への対応および募集・教育・就職に関する進捗報告を行う。 DX 社会をワクワクさせる学校の実現には、他科とのコミュニケーションとカリキュラムの融合が大きなポイントになるとの指摘を受ける。また、取組む価値があるとの期待の声もいただく。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R04 年度第１回報告)	昨年度の募集・教育・就職に関する結果報告を行う。また、本年度は、共感される学校創り、自己改善できる学校創り、DX をわくわくさせる学校づくりをテーマに、募集・教育・就職活動に取り組む方針であることを報告する。
	本回学校関係者評価 (R04 年度第１回意見)	DX 社会をワクワクさせる学校の実現には、他科との交流が有効であり、学科を超えて教員が授業を実施する、また他学科の授業を受講できるなどの施策があると進捗が早くなるだろうとの指摘をいただく。
基準３ 教育活動	R03 年度自己評価	3.8/4.0
	前回学校関係者評価 (R03 年度第２回)	教育目標の設定や成績評価の仕組み、教員組織等はおおむね満足できる水準に達している。特に教育方法や評価に関してはかなり力を入れて取り組んで、自己評価報告書の「第Ⅱ章 2.本校における教育質保証システム」であげられたコマシラバスや授業シートのような取り組みも独自の取り組みとして評価できる。 事業計画に「自己改善できる学校づくり」を掲げ取り組んでい

		る履修判定試験結果から問題発見･解決方法を探るチェックバック手法の開発に関する進捗報告を行う。また、6/29 文部科学省「専修学校も質の保証･向上に関する調査研究者会議(第 22 回)」にて教学マネジメントの関し事例報告を行ったこと､および同省「専門学校と高等学校の有機的連携プログラム開発・実証事業」を受託したことを報告する。 高校との連携プログラムは､高校～専門と一本筋を通すというよりも、5 年間自由に泳ぎ回って過ごす中で、自分のやりたいことがみつけられるようになるとよい。高専とは違った「限定しない」ということで面白いものができるとの意見をいただく。 現在の教学マネジメントも素晴らしいが、公開授業を行い、他科の先生の目で授業を見直すのもよいとの指摘をいただく。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R04 年度第 1 回報告)	昨年度の教務指標結果（出席率・課題発生数・課題残率・退学率)関して、問題の早期発見、解決に取り組み、改善できたことを報告する。特に退学率は 2 年連続目標 5.0%以内を達成できたことを合わせて報告する。 また､本年度も自己改善できる学校づくりをテーマに、学生へのフォロー体制の再構築に取り組み､さらに教育の質向上に取り組む方針であることを報告する。
	本回学校関係者評価 (R04 年度第 1 回意見)	わかる目標・できる目標は、学生・講師ともに学修の進捗が把握できてよい｡また現在のスタジオ―アワー(補講時間)は学修効果を高めるために効果的であるとのお話をいただく。一方、学生をフォローするために TA 制度の導入を有効であるとの指摘をいただく。
基準 4 学修成果	R03 年度自己評価	3.0/4.0
	前回学校関係者評価 (R04 年度第 1 回)	就職率の向上プロセスについては概ね満足できる水準に達している。一方で、資格・免許取得率の向上に関しては、最低目標の達成に終始することなく、総合的な支援策を講じる必要がある。また、卒業生の動向調査については十分に実施されているとはいえないため今後は組織として体制を整えていく必要がある。 事業計画に「自己改善できる学校づくり」を掲げ取り組んでいる e ポートフォリオ等学修成果の見える化に関する進捗報告を行う。また、専門学校のプレゼンス向上もふまえて、6/29 文部科学省「専修学校も質の保証・向上会議(第 22 回)」等にて教学マネジメントの関し事例報告を行ったことを報告する。 ポートフォリオの評価がないと､学生が作成に取り組む意欲が低下してしまう｡いいねボタン等企業の方がポートフォリオを評価し、学生の励みになる仕組みができるとよいとの指摘を受ける。また、保護者の方より、保護者通知を通じて学修進捗が把握できている、また RJP の上級生との取り組みを通じて、成長を実感しているとのお話をいただく。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R04 年度第 1 回報告)	本年度も自己改善できる学校づくりをテーマに､授業改善手法の開発および学習成果の見える化に取り組み､さらに学修成果を上げる方針であることを報告する。
	本回学校関係者評価 (R04 年度第 1 回意見)	学修の成果・エビデンスとして卒業生の活躍・企業からの評価･活躍率を示すのが有効である｡そのために卒業生の追跡調査を実施すべきとの指摘を受ける。
基準 5 学生支援	R03 年度自己評価	3.3/4.0
	前回学校関係者評価 (R03 年度第 2 回)	就職支援や保護者との連携についてはおおむね満足できる水準に達している｡一方で､毎年僅かながら退学者が発生しており、人間性を含む対応力強化、解決策の共有などについて、なお一層低減に努力する必要がある。 在校生および教職員を対象にした職域接種の実施等 Covid-19 への対応のほか、リカレント教育支援に関し、専門人材育成訓練の Web 動画クリエイター科受けいれを、3 名から 8 名に拡充することを中心に進捗報告を行う。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R04 年度第 1 回報告)	新修学支援制度および教育訓練給付･専門人材育成訓練等のリカレント教育に関する報告を行う。また、本年度もこれらの取り組みを継続する方針であることを報告する。

	本回学校関係者評価 (R04 年度第 1 回意見)	DX 社会をワクワクさせる学校つくり・DX の推進のためにリカレント教育・リスキリングが重要である。リスキリングに関しては㈱グロービズの取組みが参考になるとの助言をいただく。
基準 6 教育環境	R03 年度自己評価	3.7/4.0
	前回学校関係者評価 (R03 年度第 2 回)	施設・設備・教育用具等は、概ね満足できる水準に達している。 Covid-19 への対応に関し、授業および行事等の学事日程の進捗状況、職域接種の実施等感染防止対策を中心に報告を行う。本年度も、学修環境の維持し学びの継続に努めることを報告する。 Covid-19 感染に関し、ともすれば隠しがちになる情報を具体的に公表している点、評価できる。上記取り組みで問題は無い。 中期計画、DX 社会をワクワクさせる学校づくり内の TTC ラボに興味がある。メディアセンターを新しくして、企業連携の場を設けるのは良い試みとの評価をいただく。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R04 年度第 1 回報告)	Covid-19 への対応を含め、本年度も学修環境を整備に努める方針であることを報告する。
	本回学校関係者評価 (R04 年度第 1 回意見)	Wi-fi 環境が脆弱である点、早急に調査・改善すべきとの指摘をいただく。
基準 7 学生の募集と受入れ	R03 年度自己評価	3.5/4.0
	前回学校関係者評価 (R03 年度第 2 回)	学生募集活動に関しては、コンプライアンス上は適切な運営が行なわれている。一方で、入学定員は充足できていないことから、上記に掲げた優れた教育活動やその成果などの情報発信提供方法を改善していく必要がある。 学生の募集に関し、昨年度の一般入試に加え本年度より AO 入試においてもネット出願を開始したこと、またそれにも関わらず昨年度より低調に進捗していることの報告を行う。 入学者が減っている点、学科による差があるかなどより詳しい分析を聞かせてほしいとの指摘を受ける。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R04 年度第 1 回報告)	昨年度の学生募集状況を報告するとともに、本年度も事業計画に「共感される学校づくり」を掲げ、広報活動に取り組む方針であることを報告する。
	本回学校関係者評価 (R04 年度第 1 回意見)	大学定員が緩和される方向で検討されているので、対大学の施策、コロナの終息後をにらみ地方からの進学を促す施策を検討すべきである。また退学率のほか、学修の成果・エビデンスとして卒業生の活躍・企業からの評価・活躍率を示すのが有効であるので卒業生の追跡調査を実施すべきとの指摘を受ける。 そして、中高生は SDGs を学んできているので、SDGs への取組みを示す必要があるとの指摘をいただく。
基準 8 財務	R03 年度自己評価	3.6/4.0
	前回学校関係者評価 (R03 年度第 2 回)	財務に関しては、財務基盤、予算収支計画、監査の各項目に関して問題ない。なお、財務情報も含み、職業実践専門課程様式 4 に関し、本年度も 7 月末日付けで公開を行うことを報告する。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R04 年度第 1 回報告)	財務情報も含み、職業実践専門課程様式 4 に関し、本年度も 7 月末日付けで公開を行うことを報告する。
	本回学校関係者評価 (R04 年度第 1 回意見)	上記取り組みで問題は無い。一方、学校法人のガバナンス改革において、会計監査が厳しくなるので改革内容を把握し準備を進める必要があると指摘いただく。
基準 9 法令等の遵守	R03 年度自己評価	3.1/4.0
	前回学校関係者評価 (R03 年度第 2 回)	法令等の遵守に関しては、法令遵守、個人情報保護、学校評価の各項目に関して問題ない。職業実践専門課程様式 4 に関し、本年度も 7 月末日付けで公開を行う。上記取り組みで問題は無い。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R04 年度第 1 回報告)	職業実践専門課程様式 4 に関し、本年度も 7 月末日付けで公開を行うことを報告する。
	本回学校関係者評価 (R04 年度第 1 回意見)	上記取り組みで問題は無い。
基準 10	R03 年度自己評価	3.5/4.0

社会貢献・地域貢献	前回学校関係者評価 (R03 年度第 2 回)	本年度の RJP の活動状況に関し、2 期の問題発見プログラム・3 期の問題解決企画プログラムをとおして設定された各科の課題に関し報告を行う。 RJP は、各科のつながりや対社会というところが少し弱くなっている。全科共通でなくてもよいので、近しい分野で協力して実施するのもよいとの指摘をいただく。 また、他科と連携する中で、自分たちが創ったものが人を幸せにすることを経験する学びの機会にすべきとの意見をいただく。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R04 年度第 1 回報告)	昨年度の RJP P における地域連携・企業連携に関する報告を行う。また、本年度も同様な取り組みを行うことを報告する。
	本回学校関係者評価 (R04 年度 1 回意見)	RJP は頭打ちとの意見もあるが、DAO(分散型自立組織)的なメタバース空間を作るなど、新しいジャンルにチャレンジする場として活用してはどうかとの意見をいただく。

2．2022(令和 4)年度 第２回学校関係者評価委員会

大項目		
基準 1 教育理念・目的・育成人材像	R03 自己評価	3.8/4.0
	前回学校関係者評価 (R04 年度第 1 回)	教育理念や目的、育成人材像の重要性に関しては、教職員に十分に浸透しており、その実践においてもおおむね満足できる取り組みがなされている。また、各学科の教育目標、育成人材像を正しく方向付けるための一連のプロセスにおいても適切に構築されている。一方、環境の変化に対応するための将来構想に関しては、今後も社会等の動きを見極めて柔軟に対応する必要があり、科を超えた取り組みであるため、校全体で取り組んでいく。 本年度も中期計画の３つの柱の一つとして、DX 社会をワクワクさせる学校づくり(DX 時代を推進する次世代技術者教育事業の構築)への取り組みを軸に活動する旨を報告する。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R04 年度第 2 回報告)	中期計画、DX 社会をワクワクさせる学校づくりに関し、これからの人材育成の方向性を探る専門人材未来会議(10/26 第 6 回実施)の内容に関し報告を行う。
	本回学校関係者評価 (R04 年度第 2 回意見)	DX 社会をワクワクさせる学校の実現には、他科との交流が有効であり、コロナ終息後は未来会議も学生も聴講できるようにすべきとの意見をいただく。
基準 2 学校運営	R03 年度自己評価	3.4/4.0
	前回学校関係者評価 (R04 年度第 1 回)	学校運営方針や事業計画については明確に定められており、設置法人や学校そのものの運営に関しても寄付行為や規定類により適切な運営を行っている。 昨年度の募集・教育・就職に関する結果報告を行う。また、本年度は、共感される学校創り、自己改善できる学校創り、DX をわくわくさせる学校づくりをテーマに、募集・教育・就職活動に取り組む方針であることを報告する。DX 社会をワクワクさせる学校の実現には、他科との交流が有効であり、学科を超えて教員が授業をする、また他学科の授業を受講できるなどの施策があると進捗が早くなるとの指摘をいただく。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R04 年度第 2 回報告)	専門学校を取り巻く状況を概説し、それをふまえた上で、本年度における募集・教育・就職に関する進捗報告を行う
	本回学校関係者評価 (R04 年度第 2 回意見)	4 月に開講したデータサイエンス＋AI 科および IoT＋AI 科の運営状況に関する質疑をいただく。また、新学科の実績として内定先企業が重要になるので、学生の就職活動をしっかり支援するよう指摘をいただく。 また、大和ハウスとの連携を行っているが、他のハウスメーカーやゼネコンとの連携も進めるべきとの助言をいただく。

基準 3 教育活動	R03 年度自己評価	3.8/4.0
	前回学校関係者評価 (R04 年度第 1 回)	教育目標の設定や成績評価の仕組み、教員組織等はおおむね満足できる水準に達している。特に教育方法や評価に関してはかなり力を入れて取り組んで、自己評価報告書の「第Ⅱ章 2.本校における教育質保証システム」であげられたコマシラバスや授業シートのような取り組みも独自の取り組みとして評価できる。 昨年度の教務指標結果関して、問題の早期発見、解決に取り組み、改善できたことを報告する。特に退学率は 2 年連続目標 5.0%以内を達成できたことを合わせて報告する。 また、本年度も自己改善できる学校づくりをテーマに、学生へのフォロー体制の再構築に取り組み、さらに教育の質向上に取り組む方針であることを報告する。 わかる目標・できる目標は、学生・講師ともに学修の進捗が把握できてよい。また現在のスタジオ―アワーは学修効果を高めるために効果的であるとのお話をいただく。一方、学生をフォローするために TA 制度の導入を有効であるとの指摘をいただく。
	上記指摘を踏まえた 学校の対応 (R04 年度第 2 回報告)	本年度の教務指標（出席率・課題発生数・課題残率・退学率）および就職活動上記用に関し報告を行う。 また本年度も自己改善できる学校づくりをテーマに、学生へのフォロー体制の再構築に取り組んでおり、その進捗も報告する。
	本回学校関係者評価 (R04 年度第 2 回意見)	2 年制の専門課程では導入は簡単ではなく 3 年課程にするなどの工夫が必要だが、、インターンシップ等実際の仕事の現場に触れる機会が設けられるとよいのと助言をいただく。
基準 4 学修成果	R03 年度自己評価	3.0/4.0
	前回学校関係者評価 (R04 年度第 1 回)	就職率の向上プロセスについては概ね満足できる水準に達している。一方で、資格・免許取得率の向上に関しては、最低目標の達成に終始することなく、総合的な支援策を講じる必要がある。また、卒業生の動向調査については十分に実施されているとはいえないため今後は組織として体制を整えていく必要がある。 本年度も自己改善できる学校づくりをテーマに、授業改善手法の開発・学習成果の見える化に取組む方針である。 学修の成果・エビデンスとして卒業生の活躍・企業からの評価・活躍率を示すのが有効である。そのために卒業生の追跡調査を実施すべきとの指摘を受ける。
	上記指摘を踏まえた 学校の対応 (R04 年度第 2 回報告)	本年度の教務指標（出席率・課題発生数・課題残率・退学率）および就職活動上記用に関し報告を行う。 また本年度も自己改善できる学校づくりをテーマに、学生へのフォロー体制の再構築に取り組んでおり、その進捗も報告する。
	本回学校関係者評価 (R04 年度第 2 回意見)	学修の成果・エビデンスとして卒業生の活躍率・エンゲージメント指数等を示すのが有効であるとの助言をいただく。
基準 5 学生支援	R03 年度自己評価	3.3/4.0
	前回学校関係者評価 (R03 年度第 2 回)	就職支援や保護者との連携についてはおおむね満足できる水準に達している。一方で、毎年僅かながら退学者が発生しており、人間性を含む対応力強化、解決策の共有などについて、なお一層低減に努力する必要がある。 新修学支援制度および教育訓練給付・専門人材育成訓練等のリカレント教育に関する報告を行う。また、本年度もこれらの取り組みを継続する方針であることを報告する。 DX 社会をワクワクさせる学校つくり・DX の推進のためにリカレント教育・リスキリングが重要である。リスキリングに関しては㈱グロービズの取組みが参考になるとの助言をいただく。
	上記指摘を踏まえた 学校の対応 (R04 年度第 2 回報告)	新修学支援制度および教育訓練給付・専門人材育成訓練等のリカレント教育に関する進捗を報告する。
	本回学校関係者評価 (R04 年度第 2 回意見)	上記取り組みで問題は無い。
基準 6 教育環境	R03 年度自己評価	3.7/4.0
	前回学校関係者評価	Covid-19 への対応を含め、本年度も学修環境を整備に努める

	(R04 年度第 1 回)	方針であることを報告する。また Wi-fi 環境が脆弱である点、早急に調査・改善すべきとの指摘をいただく。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R04 年度第 2 回報告)	Covid-19 への対応を含め、本年度も学修環境を整備に努める方針であることを報告する。
	本回学校関係者評価 (R04 年度第 2 回意見)	Wi-fi 環境が脆弱である点、早急に改善すべきとの指摘をいただく。
基準 7 学生の募集と受入れ	R03 年度自己評価	3.5/4.0
	前回学校関係者評価 (R04 年度第 1 回)	学生募集活動に関しては、コンプライアンス上は適切な運営が行なわれている。一方で、入学定員は充足できていないことから、上記に掲げた優れた教育活動やその成果などの情報発信提供方法を改善していく必要がある。 昨年度の学生募集状況を報告するとともに、本年度も事業計画に「共感される学校づくり」を掲げ、広報活動に取り組む方針であることを報告する。 大学定員が緩和される方向で検討されているので、対大学の施策、コロナの終息後をにらみ地方からの進学を促す施策を検討すべきである。そして、中高生は SDGs を学んできているので、SDGs への取組みを示す必要があるとの指摘をいただく。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R04 年度第 2 回報告)	事業計画に「共感される学校づくり」を掲げ取り組んでいる学生の募集に関し、昨年度より低調に進捗していることを報告する。
	本回学校関係者評価 (R04 年度第 2 回意見)	退学率が増えていること、推薦入学の増加で学力が低下していること、また精神的に弱い学生が増えていることを鑑み、入学後の学科変更を容易にするなど学内の受入れ体制を強化すべきとの意見をいただく。
基準 8 財務	R03 年度自己評価	3.6/4.0
	前回学校関係者評価 (R04 年度第 1 回)	財務に関しては、財務基盤、予算収支計画、監査の各項目に関して問題ない。なお、財務情報も含み、職業実践専門課程様式 4 に関し、本年度も 7 月末日付けで公開を行うことを報告する。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R04 年度第 2 回報告)	財務情報も含み、職業実践専門課程様式 4 に関し、本年度も 7 月末日付けで公開を行うことを報告する。
	本回学校関係者評価 (R04 年度第 2 回意見)	上記取り組みで問題は無い。
基準 9 法令等の遵守	R03 年度自己評価	3.1/4.0
	前回学校関係者評価 (R04 年度第 1 回)	法令等の遵守に関しては、法令遵守、個人情報保護、学校評価の各項目に関して問題ない。職業実践専門課程様式 4 に関し、本年度も 7 月末日付けで公開を行うことを報告する。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R04 年度第 2 回報告)	職業実践専門課程様式 4 に関し、本年度も 7 月末日付けで公開を行うことを報告する。
	本回学校関係者評価 (R04 年度第 2 回意見)	上記取り組みで問題は無い。
基準 10 社会貢献・地域貢献	R03 年度自己評価	3.5/4.0
	前回学校関係者評価 (R04 年度第 1 回)	昨年度の RJP における地域連携・企業連携に関する報告を行う。また、本年度も同様な取り組みを行うことを報告する。 RJP は頭打ちとの意見もあるが、DAO(分散型自立組織)的なメタバース空間を作るなど、新しい技術・ジャンルにチャレンジする場として活用してはどうかとの意見をいただく。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R04 年度第 2 回報告)	本年度の RJP の活動状況に関し、2 期の問題発見プログラム・3 期の問題解決企画プログラムをとおして設定された各科の課題に関し報告を行う。
	本回学校関係者評価 (R04 年度第 2 回意見)	RJP は各科のコラボレーションがなく残念である。IoT 分野は連携がしやすい分野であるので、積極的に連携を検討すべきとの意見をいただく。